

面河山岳博物館 秋の企画展「久万高原のきのこ写真展」開催にあたって

当館では、2000年度開催した「面河と上浮穴のキノコ写真展」につづきまして2回目となるきのこ写真展を開催する運びとなりました。

展示されるすべての写真撮影者は愛媛県できのこ研究の第一人者の沖野登美雄先生です。沖野先生は約70年にわたり県下できのこ観察を続けてこられ、論文をはじめ図鑑や目録などたくさんの成果を挙げられ、きのこアドバイザーとして観察会やレッドデータブック発刊など各方面にて教育普及に尽力された方です。

きのことは、「菌類の中で特に大型で目立った子実体（胞子をつくるときに形成する菌糸の集合体）の通称です。森林などの木陰の腐葉土や朽木などに生え、大抵の場合は傘状で、裏に多数の胞子ができます」（沖野、1999年）。

久万高原町内は起伏に富み、暖温帯から亜寒帯まで多様な環境が成立しています。あわせて町内のほとんどが森林ですが、菌類の発生に適した環境がそろっています。

本展を通じまして、久万高原町に自生する身近なきのこを出発点にして、きのこの生活など、いろいろな角度から豊かな自然環境のことを理解していただく機会になることを願っております。

終わりにになりましたが、本展開催にあたりまして、多大なご協力を賜りました沖野登美雄先生に心より厚く御礼を申し上げます。

平成29年10月7日

面河山岳博物館